

様式 3

論文審査の結果の要旨

氏 名 高橋 有里

学位の種類 博士（看護学）

学位記番号 甲第 18 号

学位授与年月日 平成 30 年 3 月 22 日

学位授与の根拠 岩手県立大学学位規則第 3 条第 3 項（論文博士の場合は第 3 条第 4 項）

学位論文題目 注射による硬結の機序解明と看護ケア方法の確立

論文審査委員 主査 武田 利明

副査 伊藤 収、高橋 和真

本研究は、精神科領域で使用されている徐放性製剤の注射部位に認められることのある硬結の発生機序を明らかにし、硬結予防のための看護ケア方法を確立することを目的としている。研究は、実験動物を用いた基礎研究と、そこで得られた知見に基づく臨床研究で構成されている。基礎研究では、硬結の原因は徐放性製剤に含まれるゴマ油由来の大きな油滴であることを明らかにした。さらに、油滴の大きさを小さく（微細な油滴）することにより硬結の発生を予防できることも明らかにし、そのためには筋肉の収縮・伸展運動が効果的であることを実証研究で明らかにした。これらの知見に基づき、臨床において注射後に中殿筋が収縮する下肢の外転運動を取り入れた介入研究を実施した。その結果、外転運動を実施した場合は、しない場合と比較し硬結の発生頻度が顕著に減少した。これらの研究成果に基づき徐放性製剤に起因する硬結は、(1)適切な部位（Site）を選定し、(2)皮下組織厚を確実にアセスメント（Assessment）し、(3)適切な長さ（Length）の針を選択し、(4)確実に刺入（Insertion）する、そして(5)抜針後にマッサージはせず、(6)中殿筋の収縮運動（Exercise）を行い、(7)次回注射までの患者指導（Education）を行うことで予防できることが示唆された。これらは一連のケアとして行うことが必要で、SALIEE Injection Cycle とする新たな看護ケア方法を確立した。

主査・副査での論文審査時は、予備審査での質問内容（対象人数や組織検査の実施日など）や検討事項（介入群の表現や介入研究の記載など）について本文にどのように反映し修正されたのかについて説明が求められ適切に修正されていることを確認した。

論文審査発表会では、看護ケアとして提唱した SALIEE Injection Cycle の活用方法や普及方法に関する質問や皮下組織のアセスメント方法などについても適切に回答するとともに、注射針などの改良や看護技術書記載の見直しにも取り組む必要性を述べた。

以上のように研究内容は新規性と独創性を有しており、論文審査会や審査発表会での質問にも研究で得られた知識に基づき適切に対応し看護学博士の学位論文に値すると判断した。今後は、他の油性製剤による硬結の予防に関する検討とともに、臨床の場への普及活動が期待される。